



# 桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

1月号

令和4年1月7日

横浜市立桂小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活については HP をご覧ください。

E-mail: [y3katura@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3katura@edu.city.yokohama.jp) 桂小学校 HP の QR コードはこちら→



## 幸福と教育

校長 寺澤 みゆき

令和4年が明けました。コロナウイルス感染症の対策下における幕開けは2回目となりました。今年も、感染症との付き合い方を探りながらの1年となりそうです。皆様にとって、幸多き年でありますようお願いしております。

昨年暮れに近づくにつれ、よく目にしたのが「幸福」という言葉でした。2年間を越す制限された生活の中、人々が自分の内面や生活について深く考える時間ができたためであり、そして私自身の関心が向き注目し、目に留まるようになったためでしょう。

年の初め、1月の学校だよりは「幸福」と教育について、お話ししてみたいと思います。

まずは、統計的なことから。毎年3月、「世界幸福度レポート」という国際的調査が発表されています。これは、国連の持続可能な開発ソリューションネットワークという機関が、約150か国を対象に行っている調査で、主観的な幸福度調査の結果に、国内総生産(GDP)、健康寿命、国への信頼度などの6つの因子を加味して、位づけしたものです。2021年の結果は1位フィンランド、2位デンマーク、ドイツは13位、アメリカ合衆国19位と続き、日本は、153国中56位でした。GDPや健康寿命が高い日本が、順位で低くなる理由は6つの因子のうち「人生の自由度」「他者への寛容さ」の低さに起因しているそうです。

次に、最近読んだ若手の絵描き、塩谷歩波さんの記事から。塩谷さんは、大学で建築学を学び、建築設計事務所へスムーズに就職したという経歴の方で、さらに、好きで描いた銭湯の図解のイラストが注目され、テレビ番組にも取り上げられるようになった方です。世間一般から見れば、夢が実現した成功者。しかし、そんな中でも、そもそも建築設計を選んだ理由が、本当にやりたかった絵描きからの逃げであったり、ファンにがっかりさせたくないという思いがあったりと、自己肯定感が低いまま決して幸せではなかったそうです。

どのような状況や心理状態になると人は幸せになるのか、慶應義塾大学大学院の前野隆司教授は4つの因子に整理分析しました。それは、①自己実現と成長(やってみよう因子)、②つながりと感謝(ありがとう因子)、③前向きと楽観(何とかなる因子)、④独立と自分らしさ(ありのままに因子)であるということです。この考えで分析すると、「世界幸福度レポート」の日本に足りないのは、「ありがとう因子」と「ありのままに因子」ということとなります。塩谷さんに足りなかったのも「ありのままに因子」でしょうか。

教育は、子どもが社会で幸せに生活していく術を身に付けるためのものだと私は、思っています。前野先生の言葉を借りると、「教育とは、『ありのままに』自分の個性を伸ばし、『なんとかなる』と自信をもち、『やってみよう』と行動し、『ありがとう』ととともに歩んだ仲間感謝するような人間を育成すること」ではないかと。これは現在の教育の基本「主体的・対話的で深い学び」で目指している人間の育成に一致するものだと思います。

桂小学校で学ぶ子どもが、自分らしく、幸福を感じる人間に成長できるよう、今年も教育を進めていきたいと思っております。できることから一歩ずつ。地域、保護者の皆様、今年も桂小学校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 人権週間の取組について

11月29日(月)～12月3日(金)の一週間、人権について考えました。朝会では、校長先生から、人権に関するお話がありました。各学年では、以下の教材を使って学習を行いました。

学年	取り組んだ教材	学年	取り組んだ教材
1年生	「いわれると うれしいことば」	2年生	「どのように つたえたらいいのかな」
3年生	「わたしの好きなことは?」「自分らしさって 何だろう?」	4年生	「自分らしさって 何だろう?」
5年生	「こまっている人は いないかな」	6年生	「思いを伝えるのは むずかしい」
4・5組	「いわれると うれしいことば」	「とってもいいね わたしらしさ あなたらしさ」	